

# 島根の小松 電機産業

# 韓国企業と業務提携

## シートシャッターを販売

## 将来は現地生産も

小松電機産業(島根県八雲村、小松昭夫社長)は十六日、オリジナル商品のシートシャッターを韓国で販売するため、韓国企業と業務提携を結んだ。初年度は年間百台の製品輸出を目標にするが、今後の需要拡大が見込まれるため、二、三年後には技術提携を強化しKD(現地組み立て)生産を計画している。小松電機産業は昨年より台湾で試験販売を開始し、今回の業務提携に続いてドイツ、アメリカでも販売ネットワークづくりを検討するなど海外戦略を強めている。

小松電機産業と業務提携 設計業の東友TRADING  
したのは、貿易・工場設備 G&ENGINEERING



業務提携調印後に握手する、右から小松電機産業の小松昭夫社長と韓国側の曹秀煥、秋成泰代表

G社(ソウル市、曹秀煥代表)。韓国は大陸的気候から、冬は氷点下二〇度以下、夏は四〇度近くにもなる。作業環境の改善、省エネについての関心が高く、シートシャッターを六月から試験販売したところ、大手の家電、自動車メーカーが三十台を導入。その後、引き合いも多いことから正式に業務提携することにした。

当面は東友が韓国の総代理店となり、販売・アフターケアを担当。東友は来年、シートシャッターの製造、組み立て工場を建設する予定で、工場完成後、提携をさらに強化し、韓国での製造・販売拠点になる。韓国での販売目標は、本年度平成三年三月末まで、百台、来年度が五百台。ブランド名は日本と同じ「門番」で、既に韓国で商標登録している。

小松社長、東友の曹秀煥、秋成泰代表が出席。提携書に調印し、今後の関係強化を確認した。

シートシャッターは小松電機産業が昭和六十年に開発。超音波センサーで接近する車両などを検知し、ビニール製のシャッターが自動開閉する仕組み。高速で自動開閉できるため、冷暖房の必要な工場、倉庫で利用され、ヒット商品になっている。平成二年七月期の売上高は二十四億円で、シートシャッター三千五百台を販売。三年七月期は五千五百台の販売を計画している。